

【公報種別】 特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】 第 1 部門第 2 区分
【発行日】 令和 6 年 2 月 16 日 (2024.2.16)

【国際公開番号】 WO2022/239826
【出願番号】 特願 2023-521238 (P2023-521238)
【国際特許分類】
A 61 B 17/135 (2006.01)
【FI】
A 61 B 17/135

10

【手続補正書】
【提出日】 令和 5 年 10 月 16 日 (2023.10.16)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】 特許請求の範囲
【補正対象項目名】 全文
【補正方法】 変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

20

患者に形成された穿刺部位を圧迫するように構成された押圧部材と、
前記押圧部材と接続可能に構成された第 1 帯体と、
前記押圧部材と接続可能に構成された第 2 帯体と、
前記押圧部材と接続可能に構成された第 3 帯体と、を備え、
前記押圧部材は、前記穿刺部位を圧迫するように構成された押圧部と、前記押圧部を固定するように構成された支持部材と、を有し、

前記支持部材は、前記押圧部が位置する第 1 領域と、前記第 1 領域よりも外側に位置し、前記第 1 帯体、前記第 2 帯体、及び前記第 3 帯体が接続可能に構成された第 2 領域と、を有し、

前記第 1 帯体及び前記第 2 帯体は、前記第 2 領域に接続された状態で、前記第 1 領域に前記第 1 帯体及び前記第 2 帯体がスライド移動する際の中心となる中心点を備え、前記中心点を中心にして、前記第 2 領域において前記押圧部の周囲をスライド移動可能に構成され、

30

前記第 3 帯体は、前記第 2 領域に接続された状態で、前記第 1 帯体及び前記第 2 帯体と異なる方向に延在し、前記患者の指同士の間配置するように構成され、

前記支持部材は、前記第 1 領域の前記第 3 帯体側に、前記押圧部に向けて突出する突起部を備える、止血器具。

【請求項 2】

前記突起部は、前記第 1 領域の前記第 3 帯体側から前記第 1 領域の前記中心点側に向かって延在し、

40

前記突起部の肉厚は、前記第 1 領域の前記第 3 帯体側から前記第 1 領域の前記中心点側に向かって小さくなる、請求項 1 に記載の止血器具。

【請求項 3】

前記支持部材の前記第 1 領域は、前記第 1 領域の中央に位置する中央領域と、前記中央領域から前記支持部材の周縁に向かって、前記押圧部から離間する方向に湾曲する湾曲領域と、を有し、

前記突起部は、前記湾曲領域に位置し、前記突起部の少なくとも一部は、前記中央領域よりも前記押圧部側に突出する、請求項 1 又は請求項 2 に記載の止血器具。

【請求項 4】

前記突起部は、前記第 1 領域の前記第 3 帯体側から前記第 1 領域の中央に位置する中央

50

領域に向かって延在し、前記押圧部と接触する傾斜部を有する、請求項 1 又は請求項 2 に記載の止血器具。

【請求項 5】

前記押圧部材は、前記押圧部を穿刺部位に位置合わせするためのマーカーを有し、前記マーカーの中心は、前記突起部と重ならない位置に位置する、請求項 1 又は請求項 2 に記載の止血器具。

【請求項 6】

前記押圧部は、流体の注入により拡張可能な拡張部材から構成され、

前記突起部の肉厚は、前記支持部材の前記第 1 領域の中央に位置する中央領域の肉厚よりも大きくなるように構成される、請求項 5 に記載の止血器具。

【請求項 7】

前記突起部は、前記第 3 帯体の長軸に対して左右対称の外形を有する、請求項 1 又は請求項 2 に記載の止血器具。

【請求項 8】

前記押圧部は、流体の注入により拡張可能である部分の周縁に位置する周縁部を有する拡張部材から構成され、

前記突起部の周縁は、前記拡張部材の前記周縁部と一致する形状を有する、請求項 1 又は請求項 2 に記載の止血器具。

【請求項 9】

前記突起部は、前記押圧部と面する方向に位置する内表面を有し、

前記突起部の前記内表面は、前記第 3 帯体が延在する方向に対して交差する方向の断面が、前記押圧部から離間する側へ向けて凹状に湾曲する形状を有する、請求項 1 又は請求項 2 に記載の止血器具。

【請求項 10】

前記押圧部は、流体の注入により拡張可能な拡張部材から構成され、

前記突起部は、前記押圧部と面する方向に位置する内表面を有し、

前記突起部の前記内表面は、医療用長尺体の一部を保持可能に構成された少なくとも 1 つのガイド溝を有する、請求項 1 又は請求項 2 に記載の止血器具。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

第 1 領域 141 には、図 5、図 6、図 7、図 8 に示すように、第 1 帯体 150 及び第 2 帯体 160 がスライド移動する際の中心となる中心点 R が設けられている。図 8 に示すように、中心点 R は、第 1 帯体 150 及び第 2 帯体 160 が第 2 孔部 147 a、147 b に沿ってスライド移動するときの中心となる位置である。また、本実施形態では、中心点 R は、支持部材 140 の面方向の略中心位置に位置している。そのため、中心点 R は、図 6、図 7、図 8 に示すように、拡張部材 130 に投影した際、マーカー 135 と重なる位置に位置する。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0092

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0092】

突起部 240 は、傾斜面の先端を中心とする扇形状であるため、第 3 帯体 170 が延在する方向に対して交差する方向において、マーカー 135 と突起部 240 が重なる領域を小さくすることができる。そのため、支持部材 140 が穿刺部位 p1 に位置するマーカー

10

20

30

40

50

ー 1 3 5 の中心側に向かってより確実に押圧部 1 2 0 を押圧できるように構成しつつ、患者に止血器具 1 0 0 を装着するとき、患者の手の表面への止血器具 1 0 0 のフィットさせることができる。

10

20

30

40

50